



Data

監督・脚本：イム・サンス
出演：チ・ジニ/ヨム・ジョンア/
キム・ユリ/ユン・ヒソク/
イ・ウンソン/ユン・ヨジョ
ン/パン・ヒョジョン

👁️👁️ みどころ

韓国の大島渚ことイム・サンス監督が、『光州5・18』（07年）とは全く違う視点から、1980年のあの事件を！観客動員数は740万人VS15万人と段違いだ、私は本作の方が好き。もっとも、なつかしの庭で過ごした2人の回想録風ラブストーリーだから、少し退屈かも？その意味では、ラブシーンはもう少し強烈にしてほしかったが・・・。

* * * * *

光州事件を、「韓国の大島渚」の視点から

1980年の光州事件を真正面から描いた映画は、キム・ジフン監督の、原題『華麗なる休暇』、邦題『光州5・18』（07年）で、観客動員数740万人は歴代8位の人気作。「韓国映画セレクション」を開催しているユウラク座は、「光州事件とその後」と題して『光州5・18』と本作を2本立てで上映したが、両者の切り口は全く違う。『光州5・18』について私は、「もっと突っ込みめなかったの？」「道化役の2人が目立ち過ぎ・・・？」と問題点を指摘し、評価は意外にも星3つと高くなかった（『シネマルーム19』78頁参照）。本作と同時に再度これを鑑賞したが、その感想はそんな評論を書いた時と全く同じだった。

それに対し、「韓国の大島渚」と呼ばれているイム・サンス監督は、1979年の朴正熙大統領御暗殺事件については『ユゴ 大統領有故』で「史実」を描こうと真正面から迫った（『シネマルーム16』126頁参照）が、1980年の「光州事件」については真正面からとりあげず、『なつかしの庭』という邦題がピッタリの視点から、情感タップリなラブストーリーとして描いている。さて、それはなぜ？

冒頭は出所シーンから

映画冒頭は、『親切なクムジャさん』(05年)と同じように、主人公オ・ヒョヌ(チ・ジニ)が監獄から出所するシーンから始まる。出所してきたクムジャさんに対しては、服役中の熱心な信仰ぶり(?)に感激した伝道師が音楽隊の演奏で迎え、韓国での習慣どおり白いトーフを差し出した(『シネマルーム9』222頁参照)が、本作のヒョヌには出迎えは誰もおらず、さびしい限り。また『親切なクムジャさん』は出所した後の復讐劇が見モノだったが、光州事件に関与した罪で16年8カ月も服役していたヒョヌは、出所後まずどこへ?そして何を?

イム・サンス監督は巧みに時間軸を転換させながら、光州事件から17年を経た現実と、そこから回想される17年前のラブ・ストーリーを描いていく。「なつかしの庭」で彼を匿ってくれた若い女性ハン・ユンヒ(ヨム・ジョンア)と、光州事件の関係者狩りの中で、当局の追及から逃げ回っていた「社会主義者」ヒョヌとの17年前の数々の思い出とは?



(C)2006 SOVIK Venture Capital and DCG Plus. ALL RIGHTS RESERVED.

活動家はなぜモテるの?

1989年6月4日に北京で発生した天安門事件で民主化運動のリーダーとされた王丹氏や柴玲氏などの学生たちはほとんどアメリカに亡命しているが、彼らの20年間にわたる亡命生活の苦勞は天安門事件20周年を迎えた今年新聞各紙で特集された。しかし投獄

から17年を経て出所してきたヒョヌを迎える者は誰もおらず、なつかしの庭に1人やってきた彼が思い出すのはコンヒと過ごしたあの日のことばかり。ヒョヌは自らのことを社会主義者と公言していたが、社会主義者でも活動家でもない中学教師のコンヒがヒョヌを匿ったのは一体なぜ？

本作はそこらの政治的な背景を一切解説しないからよくわからないが、それがかえってヒョヌとコンヒが陥っていく儚くも危うい恋の姿を強調することになっていく。回想シーンに入るとすぐに、2人で水浴びをするシーンやローソクの灯の中コンヒの誘いに乗ってヒョヌがコンヒの布団に入っていくシーンが登場するが、韓国の大島渚の呼び声高いイム・サンス監督にもかかわらず、ラブシーンは抑制、抑制、また抑制だから、私にはチョッピリ不満。せっかくヨム・ジョンアのような足の長いスラリとした美人を起用したのだから、もう少しサービスしてくれないと・・・？

出所したばかりのヒョヌは白髪もまじったおじさん風だったが、17年前のバリバリの活動家のヒョヌは快活。それにしても、活動家はなぜこんなにモテるの？

ヒョヌはなぜソウルへ？前半の見どころは？

逃亡生活を送っている場合何よりも欲しいのは情報だが、田舎では当然それは不十分。しかしそれでも、光州事件に關与した仲間たちが次々と逮捕されているという情報はヒョヌの耳に入ってくるらしい。光州事件1周年の日、ヒョヌは一升ビンをかついでコンヒと共に山に登ったが、そこで号泣する姿をみていると、コンヒもついホロリ。既にヒョヌを愛し始めていたコンヒは「もっと山奥に隠れてもいい。ここでは私のことだけを考えて！」「せめて来年の春まで一緒に隠れていよう」と主張したが、逮捕された仲間のことが気になるヒョヌは、それまで待てないと黙々をこねるかのようソウルに出ていく決心を。

しかし、そのことに一体何の意味があるの？だって、勇んでソウルへ出かけたものの、ヒョヌはすぐに逮捕されて御用となっただけなのだから。もっとも、そんな2人の雨の中での別れのシーンが前半の見どころだから、じっくりと味わいたい。また、その時コンヒのお腹の中に新しい命が宿っていたことなどヒョヌは知る由もなかったが、これが後半からラストにかけてのもう1つの見どころに。

コンヒの生活は？獄中結婚の決断は？

1943年生まれの歌手の加藤登紀子は29歳の時、獄中にいた東大全共闘のリーダー藤本敏夫と獄中結婚したが、そりゃかなり勇気のいること。だって、いつ釈放されるかわからない獄中の夫を待つだけの妻にどんな意味が？

ヒョヌが逮捕された後1人で女の子ウンギョルを出産したコンヒは、絵を描きながら若い民主化運動の活動家たちとの交流を続けていたが、コンヒが思い出すのはヒョヌと過ごした数カ月のことばかり。コンヒを慕う若い活動家の想いにも応えず、ヒョヌへの想いを貫いたのは立派だが、ヒョヌとの面会もできないままだから、かわいそう。

そんなユンヒはある日遂に1人でヒョヌの実家を訪れ、母親に1枚の紙を手渡したが、これは一体ナニ？それはここでは内緒にしておくので、獄中で暮らすヒョヌを1人待つユンヒの生活ぶり、その想いのあり方はあなた自身の目でしっかりと。

娘は17歳！

光州事件が起きたのは1980年5月18日。そして、ヒョヌが逮捕されたのはその1年ちょっと後。するとヒョヌが出所した時、ユンヒが産んだ娘ウンギョルは17歳？そして時代は1998年？日本では最近アラサー、アラフォーという呼び方が盛んだが、中国では80后（パーリンホウ）つまり1980年代に生まれた若者たちの生き方が注目されている。もちろん中国と韓国は政治・経済体制が全然違うが、成長したウンギョル（イ・ウンソン）の服装や化粧をみると韓国にも80后があることがよくわかる。

ヒョヌがユンヒとの間に生まれた娘ウンギョルの存在を知ったのは、なつかしの庭で見つけたユンヒの日記を読んだためだが、それを知ったヒョヌはさてどんな行動を？もちろん、最愛の女性との間に生まれた娘の成長した姿を見たいのは当然だが、ヒョヌはそれをどんな風にして実現するの？刑務所の中に17年間も入っているとそういう工夫力も衰えるようで、ヒョヌのとった手段は「ボクは君のお父さんの友人だ」と言って電話をかけるという平凡なもの。

その結果やっと父娘初のデートが実現したわけだが、そこで交わされた会話は「君の父親も、母親も頑固だった」というごく短いもの。しかして、それに対するウンギョルの短い回答は？そして「また会おう」とのヒョヌの言葉に対するウンギョルの返答は？これらは概ね想定内の展開だが、雪が舞うソウルの街での美しい父娘の対面シーンはそれなりに感動的。そして、もちろんこれは映画なればこそその演出だが、そんな2人をあの美しかったユンヒが黙って見守っていたのがその感動をさらに深めることに・・・。

2009（平成21）年6月30日記



なつかしの庭

DVD ¥5,040

発売・販売：エスピーオー

(C)2006 SOVIK Venture Capital and DCG Plus.
ALL RIGHTS RESERVED.